

ハンナの務め

聖書：サムエル上 1:1—2:11, 18-21, 26

- I. わたしたちは、主の回復とは何であるかを認識しなければなりません。主の回復とはシオンを建造することです。シオンは、キリストのからだの実際である勝利者たちを予表し、聖なる都、新エルサレムを究極的に完成します：
- A. シオンはダビデ王の都であり(サムエル下 5:7)、エルサレムの都の中心でした。そこに、地上での神の住まいとしての宮が建造されました(詩 48:2, 9:11, 74:2, 76:2 後半, 135:21, イザヤ 8:18)。
 - B. 旧約に、シオンを中心とするエルサレムの都がありました。予表において、召会生活は今日のエルサレムです。召会生活の中には、一群れの勝利者たちがいなければなりません。彼らは成就され円熟した神・人であり、これらの勝利者たちは今日のシオンです——参照、啓 14:1-5。
 - C. 聖なる都エルサレムの顕著な部分また麗しさとして(詩 48:2, 50:2)、シオンが予表するのは、召会の高嶺^{たかね}、中心、引き上げるもの、強化、豊富、麗しさ、実際としての勝利者です(48:2, 11-12, 20:2, 53:6 前半, 87:2)。
 - D. エルサレムの特徴、命、祝福、確立は、シオンから来ます——列王上 8:1, 詩 51:18, 102:21, 128:5, 135:21, イザヤ 41:27, ヨエル 3:17。
 - E. シオンとしての勝利者たちは、キリストのからだの実際であり、諸地方召会においてからだの建造を完成し、究極的に完成された聖なる都、新エルサレム、すなわち永遠における神の住まいである究極の至聖所をもたらします(啓 21:16, 参照、出 26:2-8, 列王上 6:20)。新天新地において、新エルサレム全体はシオンとなり、すべての信者たちは勝利者です(啓 21:1-3, 7, 16, 22)。
 - F. 啓示録において、主が欲するもの、主が建造するものはシオン、すなわち勝利者です。これは神の聖なる御言における霊的な啓示の内在的な実際です。わたしたちは確かに真剣になって、いかなる代価を払ってでも祈り、使徒パウロが払ったように代価を払う必要があります——エペソ 6:17-18, コロサイ 4:2, ピリピ 3:8-14。
 - G. 主がこの時代に勝利者を召すことに対するわたしたちの応答は、わたしたちがバイタルにされることです。バイタルになることは、わたしたちの生きて活動する神との一の中で、生きて活動的になることです。神の永遠のエコノミーを完成するための地上での神の行動は、究極的には勝利者たちを通してです。

- H. この強奪された地上に、エホバの山、シオンの山があります。その山は完全に主に開いており、完全に彼によって所有されています。シオンによって予表される勝利者たちは足がかりであり、それを通して栄光の王である主が戻って来て、全地を彼の王国として所有します——詩 24:1-3, 7-10, ダニエル 2:34-35, 7:13-14, ヨエル 3:11, 啓 11:15, 19:13-14。
- I. 神の永遠のエコノミーの高嶺、すなわちキリストのからだの実際に到達することは、祈ることによる以外に道はありません。わたしたちがキリストのからだの実際としての勝利者となって、キリストの花嫁となることは、この時代、すなわち召会の時代を閉じ、栄光の王であるキリストの来臨をもたらして、彼が王国時代に彼の勝利者たちと共にこの地を取り、所有し、支配するようにします——啓 19:7-9, 20:4-6, 詩 24:7-10。
- II. サムエル記上は、予表において、王としてのキリスト(ダビデによって予表される)と彼の王国をもたらすことを見せています：
- A. エリの下で、古いアロンの祭司職は古びて衰退し(サムエル上 2:12-29)、神は彼の永遠のエコノミーを完成するために、新しい開始を持つことを願いました：
1. 士師記の内容は、イスラエルの子たちが神に信頼し、神を捨て、彼らの敵に打ち破られ、彼らの悲惨さの中で神に悔い改めることから成っています。彼らが主に転向したとき、主は士師を起こし、士師は彼らをしいたげる者の手から彼らを救い出しましたが、その士師が死んだとき、彼らは彼らの邪悪な道に戻り、再び腐敗しました(士 1:1-2, 2:11—3:11)。これはサイクルとなり、士師記で七回、繰り返されました。
 2. 長年、召会は士師たちの下にあるイスラエルの歴史をただ繰り返してきましたが、今日、神はサムエルたち、すなわち勝利を得たナジル人を欲しています(民 6:1-9 とフットノート)。彼らはキリスト、すなわち真のダビデを、統治する王として、彼の千年の王国と共にもらし、そこにおいて勝利者たちは、「彼らの父の王国で太陽のように輝」きます(マタイ 13:43)。
 3. 今日わたしたちは新しいもの、新しい復興のために、主を仰ぎ望む必要があります。新しい復興は、この時代を、サタン的な大混乱のただ中における召会の時代から、王と彼の千年の王国の時代に転換します。
- B. サムエルの誕生のために、神は場面の背後で事を開始しました。一方で、神はハンナの胎を閉じました。もう一方で、神はペニンナを用意してハンナを「ひどく悩ませ、いら立たせた。エホバが彼女の胎を閉じておられたか

ら」です(サムエル上 1:5-6)。年ごとに、ハンナがエホバの家の上って行くとき、ペニンナはハンナを悩ませたので、彼女は泣いて食べようとしないまでになりました(7 節)。

C. これはハンナに強いて、主が自分に男の子を授けてくださるようにと祈らせました。ハンナは祈りの中で、神に対して誓願を立て、その祈りはハンナによってではなく、神によって開始されました。神はハンナの祈りと彼女の約束を喜び、彼女の胎を開きました(10-11, 20 節)。ハンナは身ごもり、男の子を産み、彼をサムエル(「神に聞かれた」、あるいは「神に求めて得た」を意味する)と名づけました。

D. 神はハンナを、命の路線において神と一である人として動機づけることができました。命の路線は、キリストを生み出して神の民に享受させる路線です。それは地上で、神が彼の王国を持つことができるためです。彼の王国はキリストのからだとしての召会であり(マタイ 16:18-19, ローマ 14:17-18, エペソ 1:22-23)、三一の神の有機体です。神は命の路線において彼と一であるそのような人を獲得することができる限り、地上で道を持ちます(サムエル上 1:1—2:11, 18-21, 26)。

E. 実は、どの人もサムエルの起源ではありませんでした。神が真の起源であり、主権をもってひそかに彼の民を動機づけました。ハンナの祈りは、神の心の願いの共鳴、語り出しでした。それは人が神聖な行動と協力し、神の永遠のエコノミーを遂行するためでした：

1. ハンナの祈りが示しているのは、神の行動と彼女の祈りに対する神の答えが、神の願いを成就するために絶対的であったナジル人、勝利者を生み出すことであったということです——1:10-20。
2. ナジル人は、絶対的に神にささげている人、神を自分の王、主、かしら、夫とする人、この世の享樂の享受に何の興味もない人です。サムエルは生まれる前でさえ、そのような人になるよう、彼の母によってささげられました。

III. サムエル記上は、王と彼の王国をもたらす務めを表します。わたしたちはこれを、「ハンナの務め」と呼んでもよいでしょう：

A. ペニンナとハンナは、二つの根本的に異なる原則と、二つの根本的に異なる務めを代表します(サムエル上 1:2, 4, 7)。ハンナの務めは、ただ王をもたらすことであり、多くの子供たちを持つことではありませんでした。ペニンナの務めは、多くの子供たち、すなわち、多くの結果のある務めを持つことでした。ペニンナと彼女の子供たちは神の民の大部分を代表しま

すが、彼らのだれも、時代を転換して、キリストを栄光の王として連れ戻すことと何の関係もありません(詩 24:1-3, 7-10)。

- B. ハンナの道は容易な道ではありませんでした。それはペニンナの比較とあざけりのゆえに、より難しくされました。ハンナたちになりたい者は、迫害、軽べつ、泣くこと、断食することに備えていなければなりません。
- C. それは単に、わたしたちがどれほど多くの人を救うことができるかという事柄ではなく、神が勝利者たちの仲間を得るという事柄です。神が得ることを願っている人は、祈って王国をもたらし、キリストを王とし、彼の勝利者たちを共同の王たちとすることができる人です。
- D. ハンナの祈りは、サムエルを誕生させるための手段でした。わたしたちの祈りは、勝利者を生み出すという結果になるべきです。わたしたちは、昇天したキリストとの一の中で祈る必要があります。キリストは彼の天の務めにおいて、勝利者を生み出すために強化の時期にいます——啓 1:4, 3:1, 4:5, 5:6, 2:7, 11, 17, 26-29, 3:5-6, 12-13, 21-22。
- E. ハンナは、息子がいなければ前進することができない点にまで来ました。彼女は、息子を持たなければならない点にまで来ました。サムエル記上第1章の息子は、啓示録第12章の勝利を得た、団体の男の子を予表します。男の子は時代を転換して、王と彼の王国をもたらします：
1. 神の最も重要な時代の行動は、啓示録第12章の男の子に見られます。男の子は、主導する勝利者としてのキリストと、追従する勝利者たちとしてのわたしたちから成っています。神はこの時代を終わらせ、王と彼の王国の時代をもたらすことを願っているので、勝利を得た、団体の男の子を、彼の時代的手段として必要としています。
 2. 男の子の携え上げは召会時代を終わらせ、王国時代をもたらします。この携え上げの後、「天で大きな声がこう言[った] ……『今、わたしたちの神の救いと力と王国と、彼のキリストの権威とが来た』」——啓 12:10。
- IV. ハンナの経験が見せているのは、わたしたちが自分の苦しみ(bitterness)のただ中で、主の御前にわたしたちの魂を注ぎ出す必要があるということです(サムエル上 1:6, 10, 15-16)。出エジプト記第15章で、イスラエルの子たちはメラの苦い(bitter)水の所に来ました。民がモーセに対してつぶやいたとき、モーセが「エホバに叫ぶと、エホバは彼に一本の木を示された。彼がそれを水の中に投げ入れると、水は甘くなった」(22-25 節)：
- A. 主がモーセに示した木は命の木を表徴します。啓示録第2章7節は「命の木」

について語っています。ギリシャ語でこの「木」という言葉は、I ペテロ第2章24節の「木」に使われているのと同じ言葉です：

1. 啓示録第2章7節の命の木は、十字架につけられ(一片の木材としての木で暗示される——I ペテロ 2:24)復活した(神の命で暗示される——ヨハネ 11:25)キリストを表徴します。ですから、モーセが苦い水の中に投げ入れた木は、命の木としての十字架につけられ復活したキリストであったと、わたしたちは言うことができます。
 2. わたしたちが祈りの中で主に叫ぶとき、主はわたしたちに、命の木としての十字架につけられ復活したキリストのビジョンを示します。わたしたちの祈りを通して、主の御前にわたしたちの魂を注ぎ出すことによって、わたしたちはこの木を、わたしたちの存在の苦い水の中に投げ入れています。そしてこれらの苦い水は、主の臨在の甘い水へと変えられます。
- B. ハンナの祈りは、彼女の苦しい(苦い)環境と彼女の苦しい存在から出て来ました(サムエル上 1:6, 10)。彼女はエリに告げました、「わたしは霊の中で圧迫のある女です。……エホバの御前に、わたしの魂を注ぎ出していたのです。……わたしは大きな憂いと悩みのゆえに、今まで語っていたのです」(15-16節)。詩篇第62篇8節は言います、「民よ、どんな時にも彼に信頼せよ。あなたがたの心を彼の御前に注ぎ出せ。神はわたしたちの避け所である。セラ」。神と接触するそのような祈りは、心から真に語られた言葉から成っています。
- C. わたしたちは、苦しい環境におり、わたしたちの存在の中で苦しいときはいつも、主に対して真実で正直になることによって、わたしたちの魂をわたしたちの心と共に、主に注ぎ出す必要があります。そのような祈りは勝利者を生み出し、勝利者は王と王国をもたらします。
- D. わたしたちが「苦い水」に来るとき、認識しなければならないのは、神が主権をもってひそかにわたしたちを動機づけ、真剣になって祈らせているということです。それはわたしたちの内なるいやしのためだけでなく(出 15:26)、それにもまして、勝利を得たナジル人を生み出すためでもあります。ナジル人は神と協力して、王と彼の王国をもたらします。そのとき神の御名は全地において卓越しており(詩 8:1)、世の王国は「わたしたちの主と彼のキリストの王国」となり、「彼は永遠にわたって王として支配され」ます(啓 11:15)。